



六郷中だより

六郷中学校だより 第15号
令和 4年 1月21日
発行・文責：校長 深澤裕治



中3の皆さんは、あと3年！

毎年のことながら、3学期のスタートは一年のうちで一番寒いとされる寒中と重なります。しかし、これから2月にむけて、季節は確実に春へと移り変わっていきます。

厳寒のシベリア地方では、一年で最も寒さが厳しいこの時期を「光の春」と呼ぶそうです。まだまだ寒い日が続くのですが、少しずつ日脚が伸び、日差しの明るさに春を感じることを表していると、気象エッセイストの倉嶋厚さんが日本に紹介した言葉です。つらい時期を耐え抜いた後には、幸せな時期が必ず来るという「冬来たりなば春遠からじ」にも通じる言葉として、いつもこの時期に思い出す言葉です。

3学期の始業式の前日、1月10日は成人の日でしたので、始業式には、生徒たちに次のような話をしました。

この3連休には、山梨県の多くの市町村で成人式が行われました。今日はその成人について、つまり「大人」について考えてほしいと思います。では、日本の法律では大人は何歳からと定められているでしょうか。今の日本での成人になる年齢は、法律で明治9年に定められて以来、約140年間、20歳と定められてきました。しかし、この法律が約140年ぶりに改正し、今年の4月1日から成人になる年齢が20歳から18歳に引き下げられ、大人と見なされる年齢が2年早まります。

もう少し説明します。中学3年生の皆さんは3月までには15歳になりますので、今年の4月を過ぎると中3の皆さんはあと3年で、中2の皆さんはあと4年で、中1の皆さんはあと5年で法律上は大人と見なされることとなります。校長先生は40年前に20歳になりました。校長先生自身も中学を卒業してからの5年間、悩みながら、大人への背伸びをし、考え、挑戦し、様々な経験を積み重ねてきたからこそ、大人へと成長していったと思っていました。

しかし、今年の4月からは校長先生が経験し、挑戦してきた大人になるまでの5年間で、中学を卒業してからではなく、中学2年生からの2年早まったスタートになるようです。

さらに考えてみましょう。大人と子どもの違いはどこにあるのでしょうか。そして、あの人は大人だと思うときはどんなときでしょうか。逆に、まだまだ子どもだと感じてしまう時はどんな時でしょうか。色んな考え方があると思いますが、中学校生活で考えてみるとすれば、大人とは「自分のことはもちろん、仲間や周りのために何かができること」「自分自身を大切にしながらも、仲間や周りを大切にするために判断し、考えることができること」。逆に「他から面倒をみてもらったり、他に面倒をかけてしまうこと、まだ大人ではない」といえるかもしれません。

昆虫の蝶のさなぎが脱皮を境に成虫の蝶になるように、皆さんは18歳の誕生日を境に、突然大人になるのではないはずです。そこで18歳までに何を体験し、何を考えることができたかがとても大切になってきます。今日、六郷中の3学期がスタートします。日々の学校生活での経験や仲間と過ごす時間を大切に、ちょっと大人を意識しながら新たな挑戦、新たな継続を考え、実行してみてください。

新しいALT オリ先生！

今までALT（外国語指導助手）としてご指導いただいていたアンダース・ダクタ・フォード先生が、ご自身のご都合によりアメリカに帰国することになりました。

3学期からは新しく グラシオ・オリベイラ先生 をお迎えし、後任のALTとして本校の英語の授業を担当していただくことになりました。

オリ先生はブラジルのご出身で、小中学校の先生として9年間子どもたちに指導してきた経験をいかし、日本で教えることをとても楽しみにして来日したそうです。とても快活なお人柄です。きっと楽しい英語の授業になると期待しています。

